

生徒の実態 ・ 縫い方を理解することが難しく、また手先も不器用なため正しくまつり縫いをすることができない。(複数の生徒)

☆手立て・合理的配慮

・ ティッシュケースづくりの手順書を配布して、説明する。生徒によっては、漢字に振り仮名を打ったり、ポイントになる部分に下線を引いたりした。

・ 手順書だけでは理解が難しい場合は、教師が実際にまつり縫いを行い、それを教材提示装置で、手本としてライブ中継をする。画面を見ながら同時に針を進めると、縫い方は理解できたが、実際の大きさと違うため、正しい縫い幅をつかめない生徒がいた。そうした生徒には、個別の指導を要した。

・ 縫い方のライブ中継を見ても理解が難しい生徒については、画用紙と綴じひもを活用した拡大見本を提示した。自分で綴じひもを穴に通すことで、糸の通り方が分かった。

手縫い・ミシン練習「ティッシュケース」づくり

年 組 氏名

一部抜粋

目的：ほころびなおしができるようにする。

(ミシン縫い・まつりぬい・ボタン付け・スナップ付け)ができる。

作り方

1 布にしるし(切る線・折る線・縫う線)を付ける。切る線で布を切る。

——切る線 - - - - -折る線・縫う線

2 まつり縫い (A)

①布のはしを三つ折りにする。

②まち針で止める。

③針と糸(目立たない色)

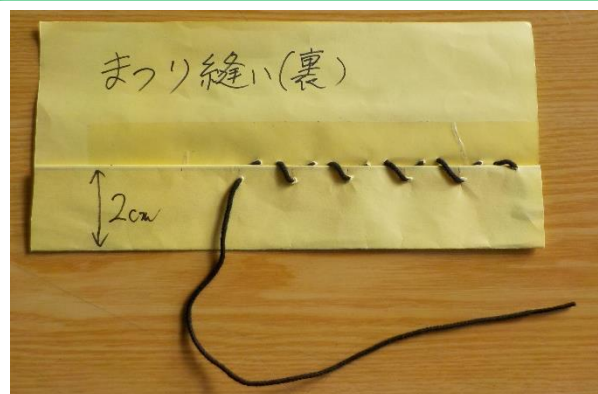
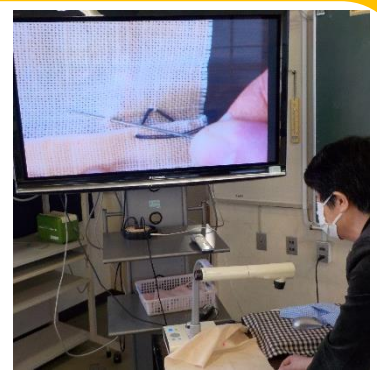
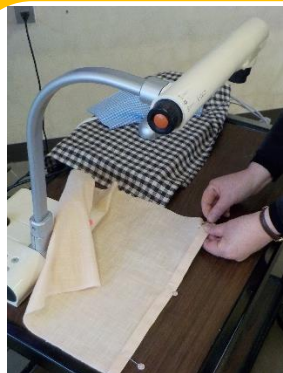
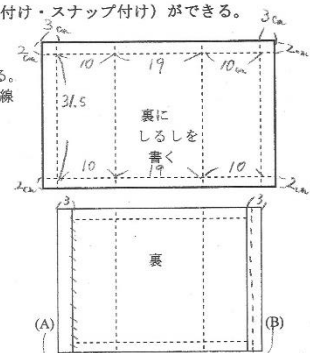
を用意し玉結びをする。

④まつりぬいをし玉どめ。

3 ミシン縫い (B)

①布の端を三つ折りにする

②ミシン縫い(直線)をする



支援を受けてみて

- ・ ライブで手本を見ると、縫う順番が分かりやすかった。
- ・ 拡大見本で実際にひもを通してみると、糸の通り方が分かりやすかった。